

次号予告

特集 スポーツの戦術とマネジメント

プロ野球現場の戦略	猿渡 康文, 他 (筑波大学)
サッカーの戦術とコンピュータ分析の現状と課題	加藤 久 (東京工業大学)
'98ワールドカップにおける日本代表のチームパフォーマンス	山中 邦夫 (筑波大学)
スキージャンプの科学と戦術	渡辺 和彦 (広島大学)
スポーツのスケジューリング	松井 知己 (東京大学)

編集後記

●最適化という分野に出会ってから十数年になりますが、近頃は「問題と解法は明確に区別しよう」、「目的と制約は明確にしよう」などの標語を作り、なかなかいいなと自画自賛しています。

●「目からうろこが落ちる思いがした」とまでは言いませんが、もし「確かに」と同意して下さるならうれしい限りです。「そんなことは当たり前だ」と思われるなら、もう少しお付き合い下さい。

●1つ目の標語は、問題なくして解法はありえないという思いから作りました。問題をできる限り明確にしようというのが2つ目です。緩和問題は元問題とは等価とは限らないという思いも2つ目は含んでいます。ORに関わる人ならばこれらは常識です。しかし、世間一般の常識ではないと最近は感じています。ゼミな

どでも、問題と解法を区別して説明できない学生もいます。極端な場合では、解法は問題ごとに1つしかないと思っている学生もいるのです。これでは問題と解法を区別するという発想もおきないでしょう。住専問題などと名前を付けただけで、あたかも問題を明確にしたかのように対策を議論するようなことが皆さんの周りにもありませんか。現実的な問題を明確にするのはたやすいことではありませんが、解法を考える前に問題を明らかにしようと努力するのがORの取る筋道です。

●技術的なことばかりでなく、我々の常識や考え方をPRするのもORのできる小さな社会貢献ではないかと思えます。当り前のことも言わなければならないと感じる今日この頃です。
(田村明久)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 大山達雄(政策研究大学院大学) 副委員長 田口 東(中央大学)

委員 葛山康典(早稲田大学), 栗田治(慶応義塾大学), 笹山晋一(東京ガス(株)), 猿渡康文(筑波大学), 椎名孝之(財電力中央研究所), 繁野麻衣子(筑波大学), 清水康司(青山学院大学), 外嶋成留(住友金属工業(株)), 田中宏和(神奈川工科大学), 田村明久(電気通信大学), 原 裕淳(株東芝), 宮崎知明(富士通(株)), 山下英明(東北大学), 吉野秀明(日本電信電話(株))

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成11年2月号 第44巻 第2号 通巻458号

代表者 水野 幸男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 大山 達雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337), 日経弘報社(3563-2241)へ